

2017年3月20日(月) 月刊ケア4月号 掲載

散歩道『11名の助産師が「アドバンス助産師」の認証受ける』

周産期センター 藤井 真紀 看護師長(助産師)

11名の助産師が「アドバンス助産師」の認証受ける



函館中央病院(函館市)
師長 藤井 真紀 さん

函館中央病院の助産師11名が「アドバンス助産師」の認証を受けた。同資格は助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)を基に、日本助産評価機構が2015年から認証を行っている。

「助産師と一口にいっても個々のキャリアや勤務する機関などによって力量は異なります。さらに全国的に産科医が不足している現状もあることから、一定の助産実践能力の水準に達していることを認証するためこの制度が創設されました。5年ごと

の更新制で、助産師が継続的に自己啓発し、専門能力を高めることで安心、安全な助産ケアを提供していくことが目的です」と藤井真紀師長。

認証は日本看護協会が開発した「クリニカルラダー(助産実践能力習熟段階)」のレベルⅢに達していることを示し、「個別性を考慮したケアの自律的な提供」「指導的役割の実践」「ハイリスクへの移行の早期発見、対処」など5項目が到達レベルとされる。申請には分娩介助100例以上、妊娠健診200例以上の実績などのほか、学会参加や研修受講など16項目の要件をクリアし、書類審査と客観的試験に合格する必要がある。

同病院は道南唯一の総合周産期母子医療センターの機能を持ち、ハイリスクの妊娠や出産、低出生体重児のケアにあたるなど、助産師に求められる役割は大きい。「高齢出産や精神疾患を合併した母親の出産などハイリスクなケースのニーズも高く、産後の安心安全な育児へのサポートも重要なとなっています。地域との連携も図りながら、よりよいケアの提供につなげていきたい」。